

# 令和4年度 さかえホーム 事業報告書

## 1 総括

開設初年度の令和3年度は、計画通りの職員数の確保ができなかった。また、その大半が経験の浅い職員であったこともあり、職員の負担が大きくなったうえ、入居者一人ひとりへの丁寧な支援が十分に行えなかった。4年度は職員の確保と育成による入居者支援の充実を重点課題としたが、新規採用があった一方で退職者もあり、職員配置は却って減少し、育成も効率的に実施できなかった。しかし、入居者と職員の関係性は概ね良好で、14名の入居者全員が概ねスムーズに新生活に移行できたと感じている。

また、令和4年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けることとなった。8月に5名の入居者が罹患し、この内2名がグループホームで療養することとなった。同時期に法人内のみらいホームの3ユニットも罹患者の療養を行ったこともあり、職員体制の確保に苦慮したほか、共同生活における感染防止対策や医療的な対応など多くの課題がみえた。これらについては中長期的に取り組む必要があり、みらいホームと共同で解決に向けて取り組んでいきたい。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 さかえホーム (ユニット:すずらん、あやめ)
- 2) 事業種別 共同生活援助 (日中サービス支援型)
- 3) 所在地 東京都小平市栄町二丁目1番15号
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 14名 (令和5年3月31日現在) (すずらん7名、あやめ7名)
- 6) 利用現員 14名 (令和5年3月31日現在) (すずらん7名、あやめ7名)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 令和3年4月1日
- 9) 職員 (令和5年3月31日現在)
  - 管理者 1名
  - サービス管理責任者 1名
  - 世話人 5名
  - 生活支援員 9名

- 3 基本理念
  - 一人ひとりの自己実現の支援
  - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
  - 安心と希望のもてる生活

- 4 基本方針
  - 1) 安定した日常生活の保障
  - 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
  - 3) 入居者の相談支援
  - 4) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業 (活動内容)

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供

- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 日中グループホームで過ごす方への必要な支援
- 7) 入浴等生活行為の支援
- 8) その他日常生活に必要な支援

## 6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
	）	希望者は日中グループホーム内で過ごす
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	23時00分	就寝

## 7 重点課題

### 1) 活動

- (1) 入居者が安心して、充実した生活を送れるよう支援する。
- ① 本人の状況を丁寧に観察すると共に、家族や日中活動先等と情報共有を密にし、一人ひとりに丁寧な支援を行う。
  - ② 入居者と信頼関係を築くと共に、入居者間の人間関係に配慮し良好な関係が築けるようにする。
  - ③ 安心できる環境づくりを行う（空間・関係性・関わり方・健康管理 など）。

#### 【成果と課題】

開設から2年が経過し、殆どの入居者はホームでの生活のルーティンができており、穏やかに過ごしている様子である。職員による一人ひとりの特性の把握や入居者間及び職員との信頼関係の構築も徐々に進んでおり、全般的に関係性も良好である。しかし、職員の経験の浅さや指導が十分に行っていないこともあり、支援のPDCAサイクルという点では不十分となった。

また、8月上旬に新型コロナウイルス感染症に5名の入居者が罹患し、この内2名と罹患しなかった入居者9名の内1名はホームでの生活を継続した。幸い罹患者は皆重症化しなかったが、感染拡大防止の為、少数の職員で支援したことによる一部職員への負担増、リスクの高さによる職員の退職、感染防止に適さない建物構造、通院ができない時のための訪問医療の必要性等多くの課題がみられた。これらの課題の解決には中長期的な取り組みが必要であり、みらいホームと共同で検討を進めたい。

- ④ 事故防止を徹底する
  - ・薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
  - ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。
  - ・整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。

#### 【成果と課題】

6月と1月に誤薬事故が2件発生した。6月は、マニュアルを遵守せず、職員の確認不足が原因で他の入居者の薬を誤って服用してしまう事故であった。1月は、新入職員に服薬時のマニュアル

や個別の申し送りが丁寧に行われておらず服薬時間を誤ってしまう事故であった。幸い大事には至らなかったが、2件とも服薬時のマニュアルが徹底されていないことが事故の原因と考えられる。再度、全職員に対して事故内容を周知し、再度服薬時の手順の確認（保管方法、氏名の確認、服薬終了の記録、複数名でのチェック等）を行うよう周知した。また、昨年度は無断外出行為が1件あったが、今年度は見守り及び施錠を徹底することで防止できた他、転倒などのけがについても見守りにより防止することが出来た。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

希望者には、随時面談を実施し、現在必要な支援内容の確認や将来希望する生活について聴取し、これに基づいた支援を行う。また、グループホームで行っている支援と家族が行っている支援を一覧表に整理し、家族が行っている支援を段階的にグループホームに移行する計画を作成する。

【成果と課題】

入居者14名中、生活のコーディネートを行う家族が不在の2名について、通院同行、預り金の管理、買い物、一部行政手続き等をホームが行った。内1名は後見人がついており、後見人との情報共有も円滑に行われた。また、14名中13名は土、日は自宅へ帰宅していたが、5月から家族の事情により1名が土曜日の朝まで利用することとなった。職員の勤務時間を増やすことで、支援体制は確保でき、入居者本人にも特に混乱や不安は見られなかった。今後、家族の高齢化に伴うホームの支援機能拡大に備えるため、グループホームが行っている支援と、家族が行っている支援を整理した一覧表を作成した。次年度以降に、これを基に法人内のみらいホームと同様、通院、買い物、散髪、金銭管理、行政手続きなどを誰がどのように行っているかを詳細に記録したノートの実成に取り掛かりたい。

2) 人材育成

(1) 管理職の育成・指導

事業管理業務を習得する（経理、労務管理、国保連・都加算請求他）。

【成果と課題】

事業所の管理業務については、指導担当のみらいホームの管理者から実務を通じて指導を受けた。しかし、慢性的な職員不足のうえ、6月にユニット責任者であった正規職員1名が退職したことや（9月に後任を採用）、新入職員の多くが未経験なこともあり、現場の支援を優先せざるを得ず知識の習得は計画通りに進まなかった（自立支援給付費・都加算請求は引継ぎ完了）。来年度も引き続き実務を通して管理業務全般の知識習得する予定である。

(2) 職員間の連携・情報共有によるチーム支援の充実を図る。

- ① 会議の実施や入居者予定表・ケース記録・業務日誌・引継ぎノートへの記入の精度を向上し、確認を徹底することで、入居者の支援状況等を職員間で共有する。
- ②職員間で共有した事項をもとに、統一した入居者支援を実施する。
- ③管理職を中心に、職員への引継ぎ及び周知事項等の伝達を徹底し、職員の業務の標準化を図る。

【成果と課題】

多くの職員は入居者一人ひとりと良い関係を作れている。施設長からの口頭による申し送りに加え、年度途中より引継ぎノートで共有を図る様にしたことで、徐々に職員間の情報共有がスムーズに行えるようになってきた。ケース記録に関しても、自分の勤務日以外の状況も徐々に共有されるようになってきている。しかし、前述のように職員の入退職（4名退職、5名入職）によ

り、職員教育が効率的に行えなかったことや、支援体制の不足から管理者が現場支援に時間が割かれ、他の職員の指導時間が確保できない等の状況があり、P D C Aサイクル等における指導は不十分となった（ケース記録においては、一日の流れのみの記載が多かったが、入居者の様子についても記載されるようになり、やや改善が図られているが、職員間の差はいまだ大きい状況である）。結果的に業務の標準化は十分に行えなかった。

### 3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

#### 【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 訓練給付費収入等の安定確保を行う。

・目標利用率： 70%

#### 【令和4年度目標額】

・訓練給付費収入 約3,000万

・都加算収入 約1,150万

約4,150万

#### 【成果と課題】

8月にグループホーム内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、自宅へ帰宅した入居者が多くいたことが影響し目標利用率70%に対し、今年度の通算利用率は64.8%となった。訓練等給付費収入及び都加算については、利用率と訓練等給付費収入の関連性を計画作成時に誤って試算したため利用率は目標を下回ったが、給付費等の合計は約185万円目標を上回った。

	令和4年度目標	令和4年度実績	令和3年度実績
利用率	70%	64.8%	55.2%
訓練給付費収入	3,000万円	3,185万円	2,650万円
都加算の収入	1,150万円	1,125万円	1,150万円
総額	4,150万円	4,310万円	3,800万円

### 8 その他の課題・目標

#### 1) 市内グループホームとの連携

新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年度に引き続き、隔月に1回開催する予定であったグループホーム連絡会は1度も実施しなかった。グループホーム内で新型コロナウイルス感染症の罹患者が出た際に、市場で品薄のため購入できなかった防護服等について他法人からの提供があり、感染対策を行うことができた。

#### 2) バックアップ施設による支援

<バックアップ施設>

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・夢風船

<実施した事項>

- ・入居者の健康管理等（けがや体調不良）看護師等へ相談
- ・外出支援（日用品の買い物、散髪等）
- ・行政等手続き等の補助（金融機関及び市役所）
- ・通院同行
- ・管理業務の補助

3) 夜間等緊急時の対応

夜間の緊急時は、管理者及び主たる職員がその対応にあたるが、夜間に緊急を要する事態は発生しなかった。

4) 世話人・法人意見交換会の実施

主たる世話人と管理者及び法人の理事2名が意見交換を目的とした懇談会を実施し、主たる世話人より業務上抱えている悩みやグループホームの課題等が挙げられた。解決や改善等には中長期的に取り組むものが多かったが、理事と課題等を共有する良い機会となった。次年度以降も、不定期で意見交換会を開催する予定である。

9 事故報告

7-1)(1)④に記載。

10 実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：令和4年4月1日	至：令和5年3月31日
(1) すずらん		365日	
(2) あやめ		365日	

11 利用状況

1) 入居者延人員	3309人
2) 一日平均利用人員	9.1人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
すずらん	1,729人	4.7人
あやめ	1,580人	4.3人
合計	3,309人	9.1人

12 入居者状況（令和5年3月31日現在）

1) 年齢

- ・30歳以上40歳未満 7名
- ・40歳以上50歳未満 7名

ユニット	30代	40代
すずらん	3名	4名
あやめ	4名	3名
合計	7名	7名

## 2) 障害の状況

### (1) 障害の状況

愛の手帳2度	9名
愛の手帳3度	2名
愛の手帳4度	2名（内身体障害者手帳愛の手帳所持 1名）
身体障害者手帳3級	1名
身体障害者手帳4級	1名（内愛の手帳所持 1名）

### (2) 障害支援区分

・区分2	1名
・区分3	1名
・区分4	4名
・区分5	3名
・区分6	5名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
すずらん			2名	2名	3名
あやめ	1名	1名	2名	1名	2名
合計	1名	1名	4名	3名	5名

## 3) 居住状況

管内居住	11名	管外居住	3名
------	-----	------	----

## 4) 性別

男性	14名
----	-----

## 1.3 環境の整備

グループホーム内共有部分の美化及び整理整頓は行ったが、入居者の居室内の整理整頓については、個別の対応が不足してしまい十分に行えなかった。

## 1.4 健康管理

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行った。また、入居者の日中活動先で新型コロナウイルスの陽性者が出た場合は、他の入居者及び家族等へ情報提供を行った他、共有スペースでの入居者同士の接触を最小限にするなど感染対策を実施した。また、希望する職員及び利用者に新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。前述の通り、8月上旬に新型コロナウイルス感染症に5名の入居者が罹患したが、幸い重症者はいなかった。

## 1.5 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。